

野口政宏前学長を悼んで



神奈川歯科大学名誉教授野口政宏先生は、昨年3月まではお元気に学長をなされておりましたが、誠に悲しいことに平成14年12月12日、骨髄異型性症候群のためご逝去されました。享年72歳でありました。平成14年4月初旬に行われました、麻醉学教室OB会主催の「学長および副学長退任を祝う会」のスピーチで、先生はすでに病魔に侵されてることを自ら公表されておりましたが、こんなにも早く先生が他界なさるとは痛恨の極みであります。

先生は、昭和5年2月5日に東京都新宿区高田馬場にお生まれになり、旧制東京高等学校から東京医科歯科大学医学部に入学され、昭和32年にご卒業後、同大学医学部第一外科学教室に入局なされ腹部内臓外科を専攻なさいました。その後、東京医科歯科大学歯学部で麻醉学を専攻なされ、昭和

39年には、日本で最初の歯科麻醉学教室の創設にご貢献なさいました。そして、昭和43年2月には、本学の麻醉学教室の初代教授にご就任されました。その当時、歯学部における麻醉学講座は全国でも医科歯科大学について二校目で、先生は歯科麻醉学の草分け的存在でありました。昭和50年には日本歯科麻醉学会会長を、また昭和57年には国際歯科麻醉学会議の組織委員長を務めるなど、歯科麻醉学の黎明期の発展にご尽力をつくされました。さらに長年にわたり日本歯科麻醉学会の理事、評議員として学会活動に参画され、特に日本歯科麻醉学会雑誌の編集委員長として、歯科麻醉学の教育、研究にも精力的に活躍なさいました。学内では第1回生より麻醉学の教育、臨床実習を担当なさいました。その後、外科学の講義、臨床をも兼務なされ、平成7年に学

長に就任されてからは歯科学概論、歯科医学史、医学概論の講義を担当するなど数々の学生教育にご貢献なさいました。

野口先生は専門ばかりではなく、芸術、文学にもきわめて造詣が深く、絵画でも音楽でもスポーツでもジャンルを問わず興味をお持ちでした。飄々とした雰囲気をお持ちでしたが、心は優しく広く、酒と人生を極めて愛しておられました。先生は「酒を飲むとますます頭が冴えてくる体質」だそう、その証拠に飲んだときの先生の話は一段と人を惹きつけるものがありました。麻酔学教室でも先生は決して威圧的ではなく、それぞれの医局員の特性や個性を尊重し、潜在能力を引き出して育む、という教

育をなさっておりました。先生の口癖は「我が教室には偉い人も偉くない人もいないが、物事を論理的に考えられる人と考えられない医局員がいる」で、日常生活のみならず臨床においても研究においても、論理的に筋が通っていないと考えられる場合は、お互いが十分に納得するまで議論を交わし、しかも決してしこりを残さないという非常にアカデミックな先生でした。


人格豊かな先生を失い大変残念ではありますが、先生の精神的ないのちは生き続けることでしょう。野口先生、心からご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

(麻酔学教室 吉田和市)

(Campus21 より抜粋)

<http://www.ishiyaku.co.jp/>



楽しくわかる クリニカルエンドドントロジー

小林千尋 著

歯内療法の理論的背景から術式の科学的根拠、臨床の実際までを、臨床に直結した視点で大胆かつ簡潔にポイントを絞って図解した。

CONTENTS

I編 序説
どのような治療がよい治療か 痛みを起ささない治療がよい治療とは取らない エンドは薬が治すのではない テクニックの重要性 よりよいエンドをめざして一貫器械の使用 失敗には必然性がある 上手になるためには

II編 理論的背景
病因としての細菌 感染経路としての根管 根尖孔外の細菌 エンドの有効性

III編 術式の科学
エンドのための解剖学 洗浄と粘薬 根管充填 難治性根尖

性歯周炎の診断と治療 顕微鏡を用いたエンド 歯髄保存が抜髄か

IV編 臨床
診断のポイント 診断の難しさ 髄腔開拓のポイント 根管作業長の決定(根管長測定法) 根管形成 洗浄 根管充填 再治療 経過観察

●A4判/176p 定価(本体8,000円+税)

医歯薬出版株式会社 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL.03-5395-7630 FAX.03-5395-7633